

がん対策推進協議会  
2014.12.12



## 若年がん患者のQOL向上を志向したがん・生殖医療の実践 一問題点と解決策



鈴木直  
聖マリアンナ医科大学産婦人科学

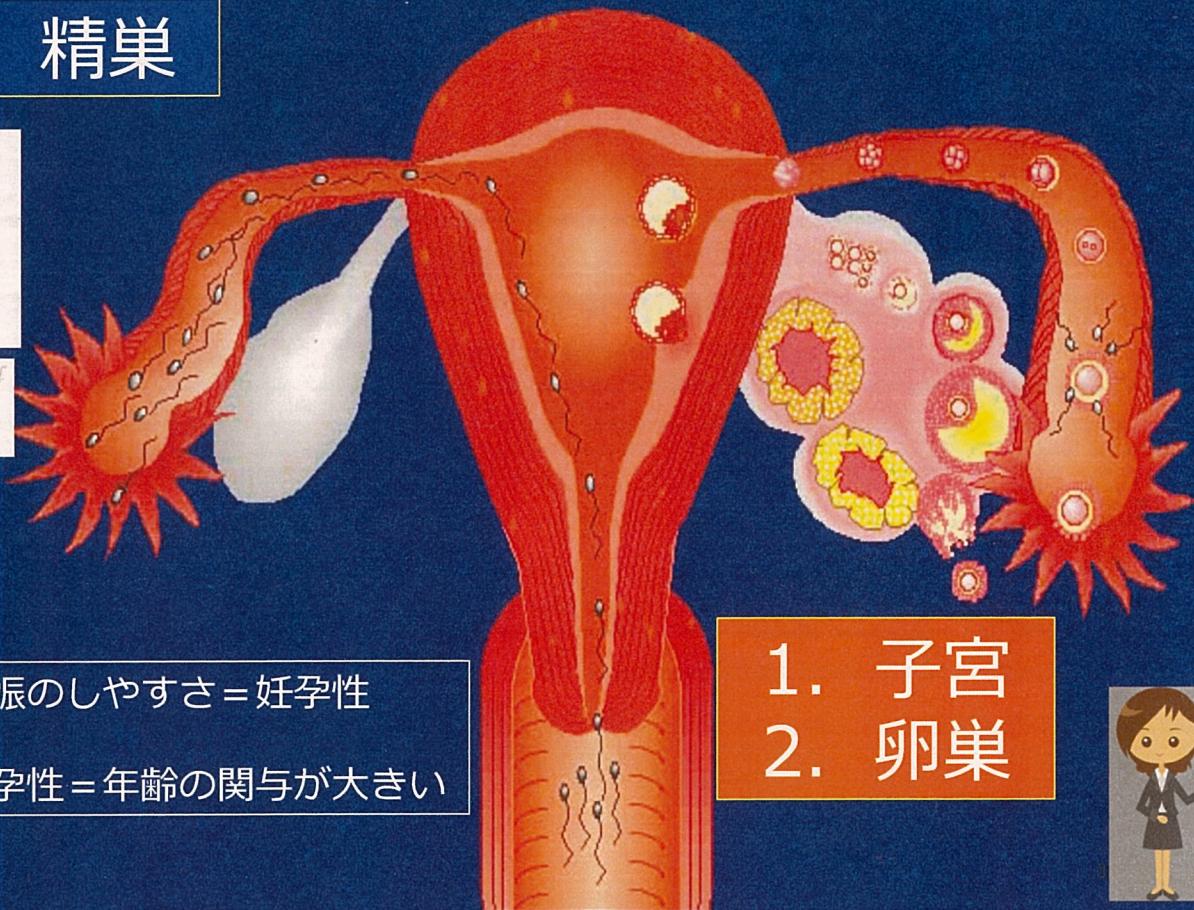
### 若年がん患者のQOL向上を志向した、がん・生殖医療の実践

#### 対象：

1. これからがん治療によって妊孕性が消失する可能性のある若年がん患者
2. がん経験者に対するQOLの維持（男性として、女性として・・・）

# 妊娠性

## 1. 精巣



- ✓ 妊娠のしやすさ = 妊娠性
- ✓ 妊娠性 = 年齢の関与が大きい

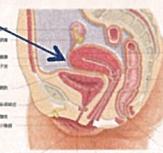
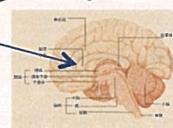
1. 子宮  
2. 卵巣



## 将来の妊娠に備えた凍結保存

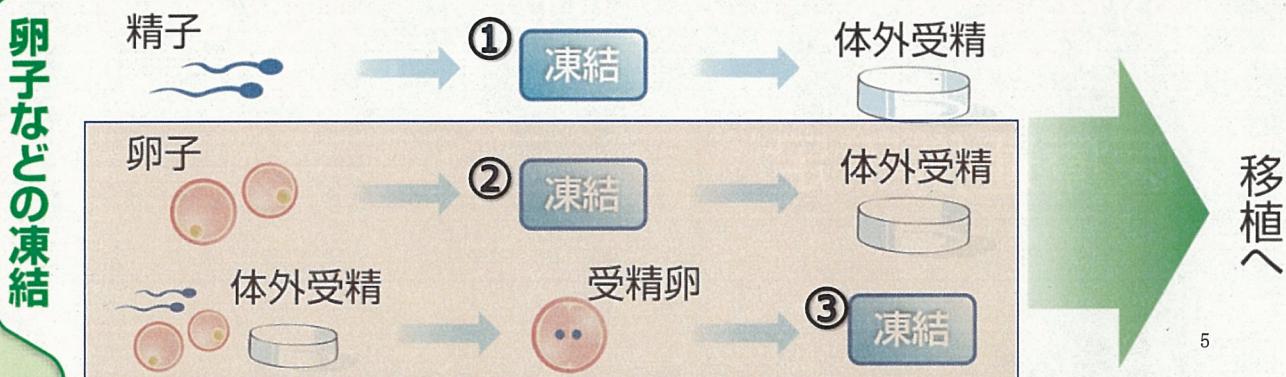
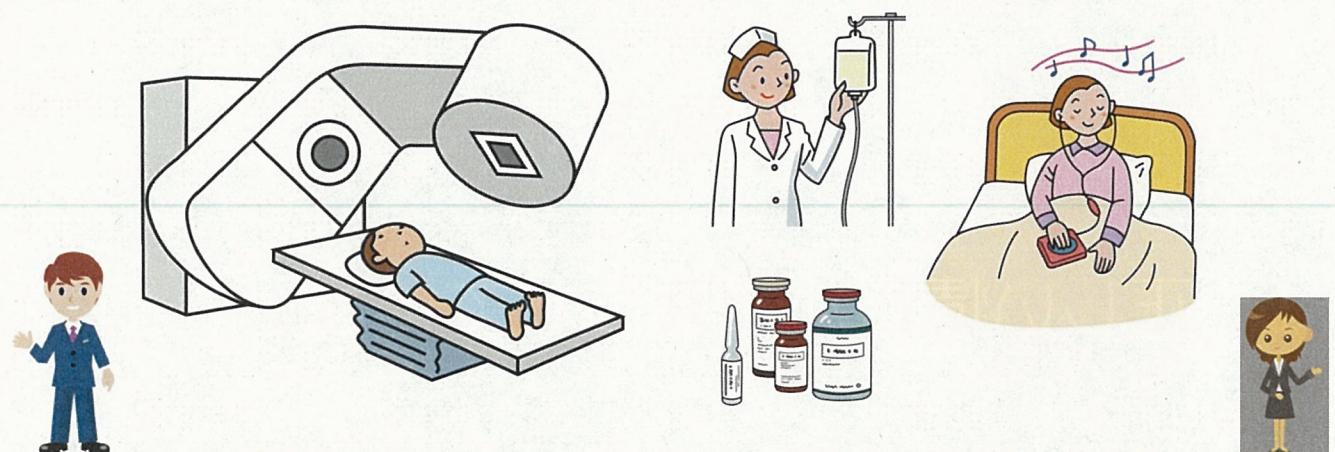


抗がん剤を使った治療



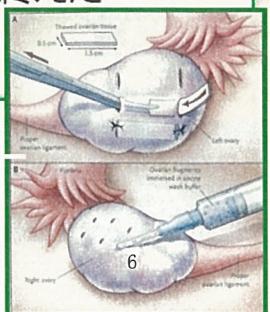
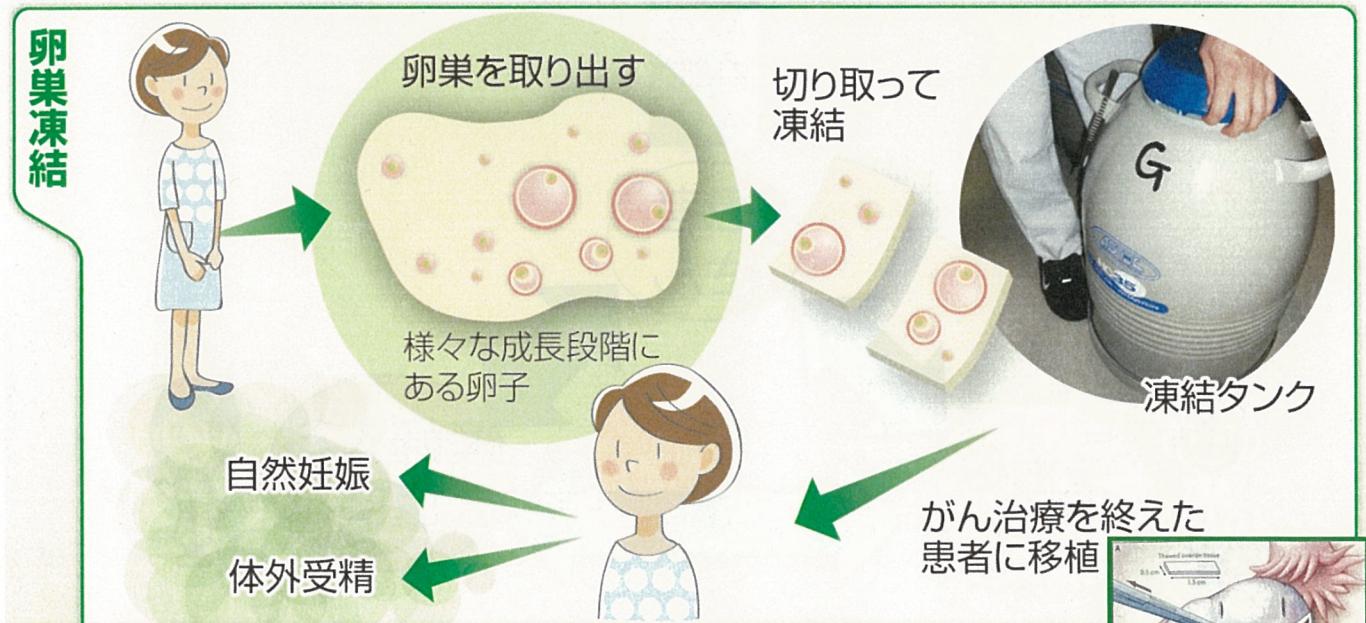
放射線を使った治療

# 将来の妊娠に備えた凍結保存



# 将来の妊娠に備えた凍結保存

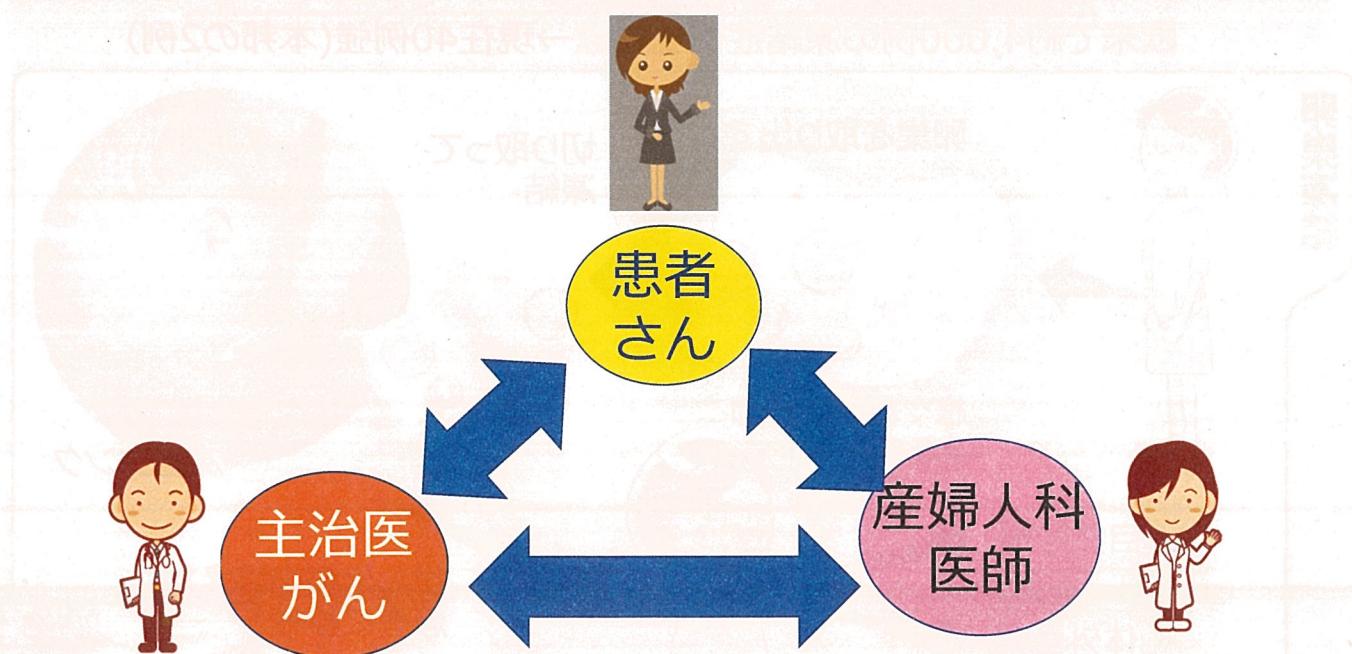
**卵巢組織凍結・移植 (ベルギー 1997年~)**  
欧米で約4,000例の凍結症例生児数→現在40例強(本邦の2例)



## 問題点：

1. 正しい情報が伝えられていない
2. 的確なタイミングで伝えられていない
3. 医療連携不足

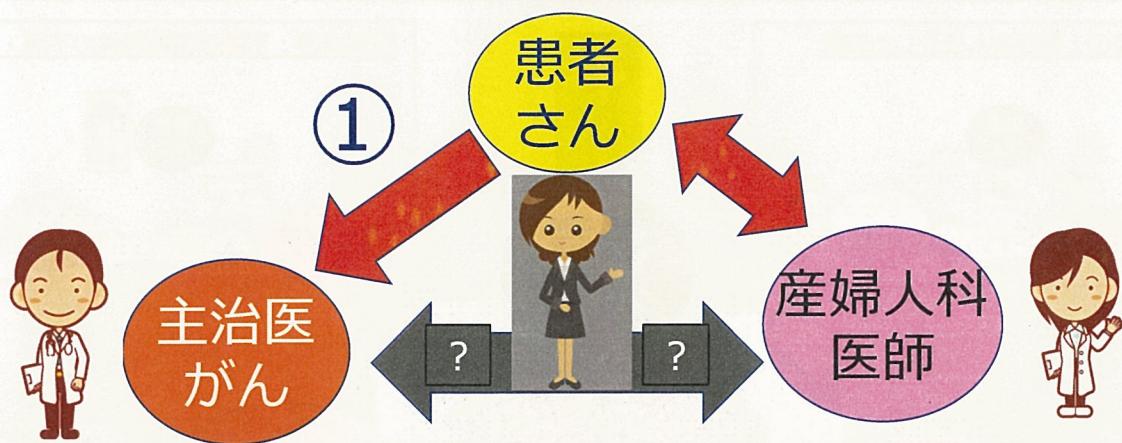
### 妊娠性温存の診療：問題点①



- 正しい情報が、迅速に的確に患者さんへ伝わっているか？
- 正しい情報や問題点が、医師間で共有されているか？

## 妊娠性温存の診療：問題点①

### 問題点①：患者さんを介した連携

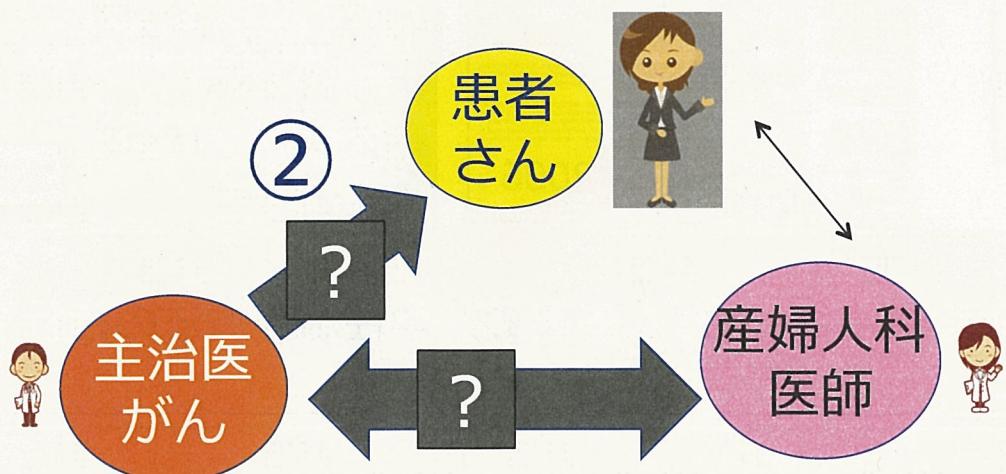


#### 問題点

- 生殖医療を専門とする医師の抗がん治療に関する知識不足
- 主治医との連携が乏しい

## 妊娠性温存の診療：問題点②

### 問題点②：正確な情報提供の不足・・？



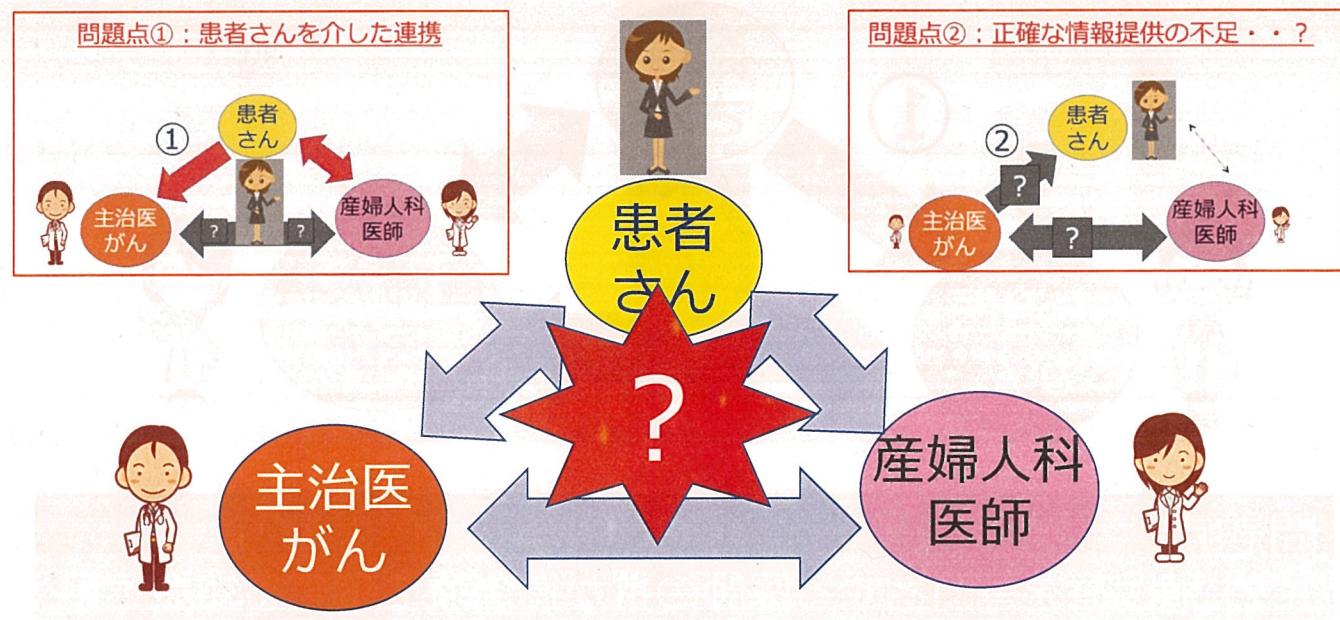
#### 問題点

- 主治医（がん）の妊娠性温存に関する知識不足
- 患者さんへの情報提供不足
- 生殖医療を専門とする医師との連携が乏しい

# 妊孕性温存の診療：問題点

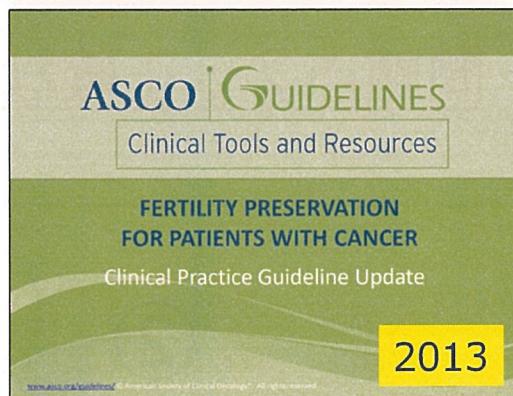
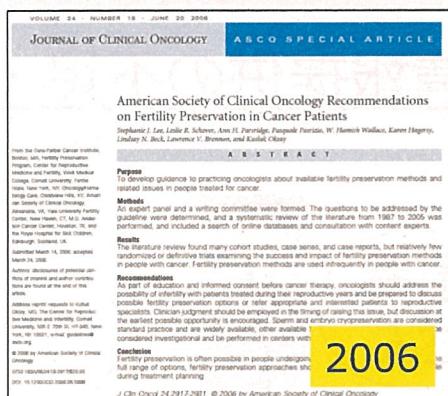
## 問題点

- 抗がん治療に対する悪影響→治療開始の遷延や治療拒否
- 温存できる可能性があった妊孕性が、失われる



11

## ASCO2013



目的：  
がん治療医を対象に、がん患者の妊孕性温存療法の指針を作成すること。

要点：

- ◆ オンコロジスト→削除
- ◆ ヘルスケアプロバイダー：腫瘍内科医、放射線腫瘍医、婦人科腫瘍医、泌尿器科医、血液腫瘍医、小児腫瘍医、外科医、看護師、ソーシャルワーカー、精神科医、他の医師以外のプロバイダー
- ◆ 卵子凍結はもはや試験的診療ではない
- ◆ アバスチン（ベバシツマブ）→卵巣毒性有り

12

## 問題点：情報不足

✓ 生殖に関する知識不足・・・・

### 化学療法誘発性無月経（タキサン系薬剤）

乳癌の術前化学療法パクリタキセル単剤週1回投与法が閉経状況に及ぼす影響について

乳癌の臨床 18, 441-445, 2003

タキサン系薬剤の卵巣毒性の有無は不明

パクリタキセル 80mg/m<sup>2</sup> 毎週投与×12回

平均年齢 42.9歳(27-51)

89.2%が12回完遂

94.3% (33/35)がパクリタキセル投与中に無月経



月経再開症例 12例 (36.4%)



閉経例 20例 (58.8%)

パクリタキセル投与により、  
60%弱の乳がん患者が閉経となる！！

# 化学療法誘発性無月経（タキサン系薬剤）

乳癌の術前化学療法パクリタキセル単剤週1回投与法が閉経状況に及ぼす影響について

乳癌の臨床 18, 441-445, 2003

タキサン系薬剤の卵巣毒性の有無は不明

94.3% (33/35)がパクリタキセル投与中に無月経  
↓  
月経再開症例 12例 (36.4%)  
↓  
閉経例 20例 (58.8%)

20例の内訳  
30-39歳 2例  
40-44歳 3例  
45-49歳 10例  
50-59歳 5例

5.9%

パクリタキセル投与により、  
60%弱の乳がん患者が  
閉経となる？？<sup>15</sup>

その他の問題点 · · · ·

## The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE

ESTABLISHED IN 1812

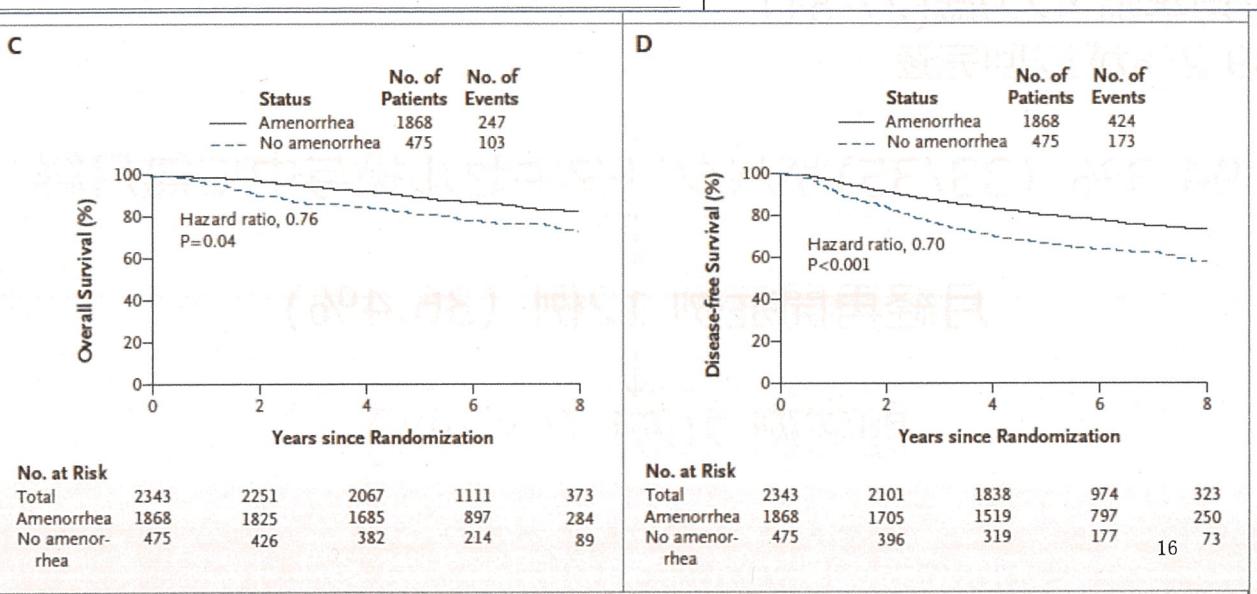
JUNE 3, 2010

VOL. 362 NO. 22

### Longer Therapy, Iatrogenic Amenorrhea, and Survival in Early Breast Cancer

Sandra M. Swain, M.D., Jong-Hyeon Jeong, Ph.D., Charles E. Geyer, Jr., M.D., Joseph P. Costantino, Dr.P.H., Eduardo R. Pajon, M.D., Louis Fehrenbacher, M.D., James N. Atkins, M.D., Jonathan Polikoff, M.D., Victor G. Vogel, M.D., M.H.S., John K. Erban, M.D., Priya Rastogi, M.D., Robert B. Livingston, M.D., Edith A. Perez, M.D., Eleftherios P. Mamounas, M.D., M.P.H., Stephanie R. Land, Ph.D., Patricia A. Ganz, M.D., and Norman Wolmark, M.D.

- ◆ “AC→T療法はAT療法あるいはconcurrent ACT療法と比較して、DFSを改善した。また、AT療法と比較してOSも改善した。
- ◆ 化学療法誘発性無月経は、治療法やエストロゲン受容体の有無に関わらず、OSとDEFを改善する。”



**Table 1. Demographic and Baseline Disease Characteristics of the Patients.**

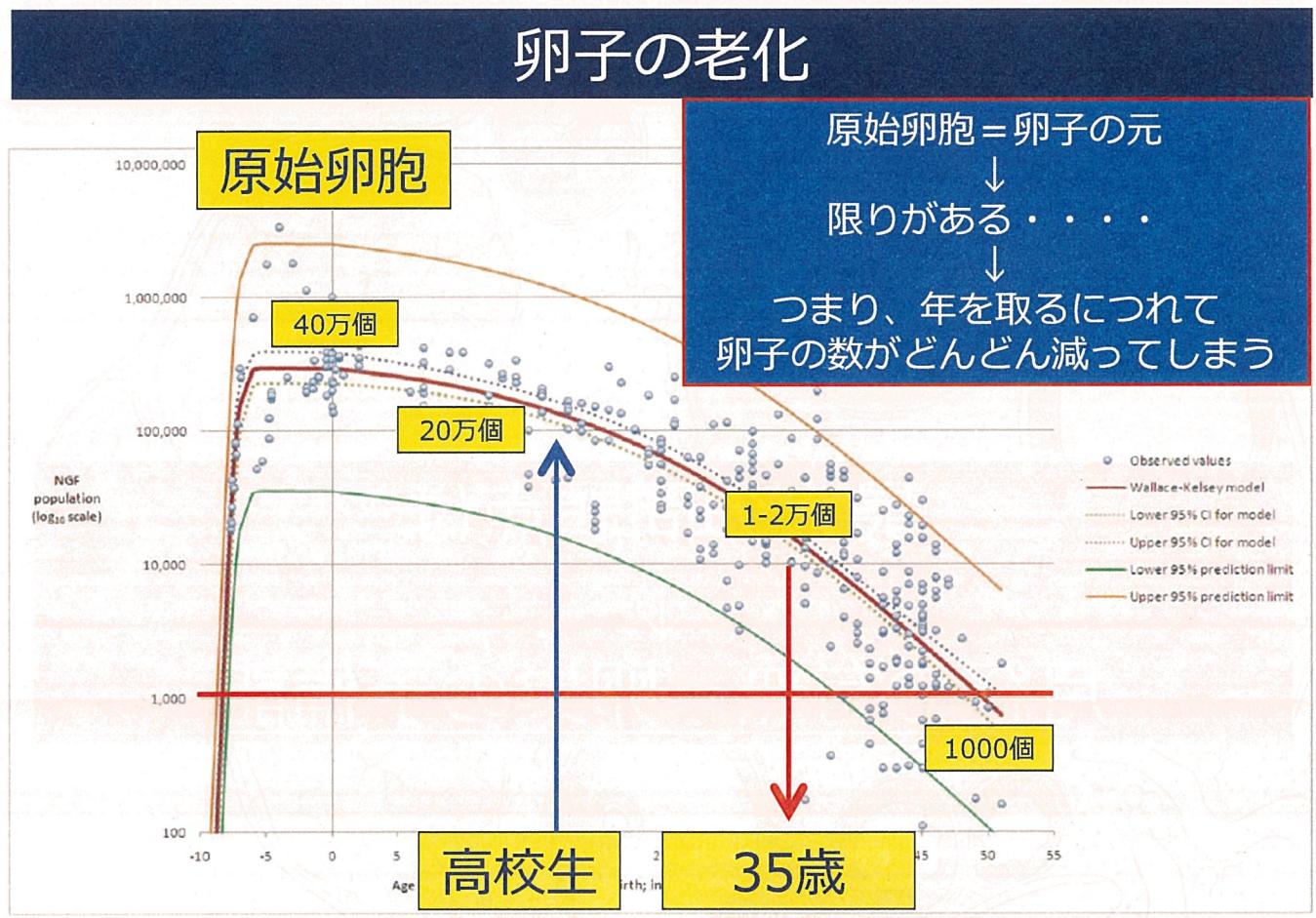
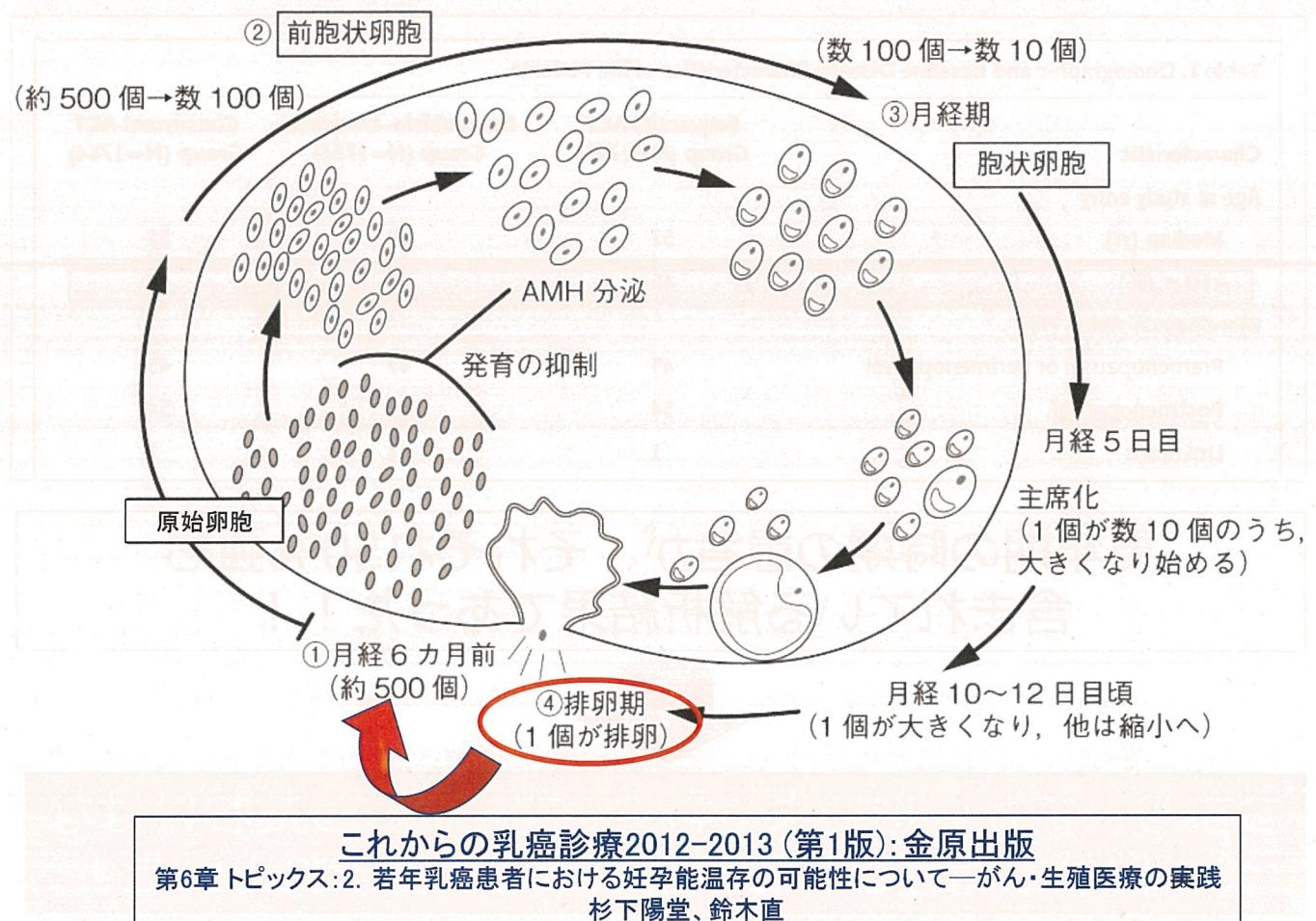
Characteristic	Sequential-ACT Group (N=1783)	Doxorubicin-Docetaxel Group (N=1784)	Concurrent-ACT Group (N=1784)
Age at study entry			
Median (yr)	51	50	51
<50 yr (%)	46	46	44
Menopausal status (%)			
Premenopausal or perimenopausal	45	47	45
Postmenopausal	54	51	54
Unknown	1	1	1

更年期の時期の患者が、それぞれ50%強も含まれている解析結果であった！！

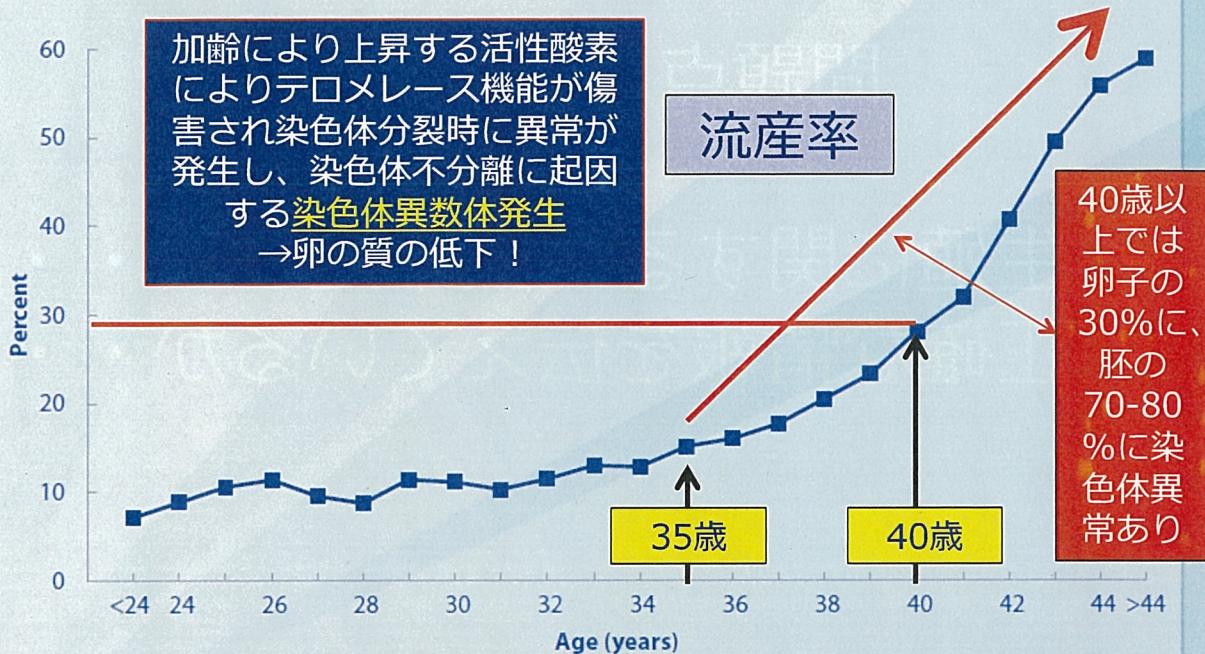


つまり、抗がん剤による影響で閉経になったわけはなく、自然に閉経となる集団が半分も含まれていた！





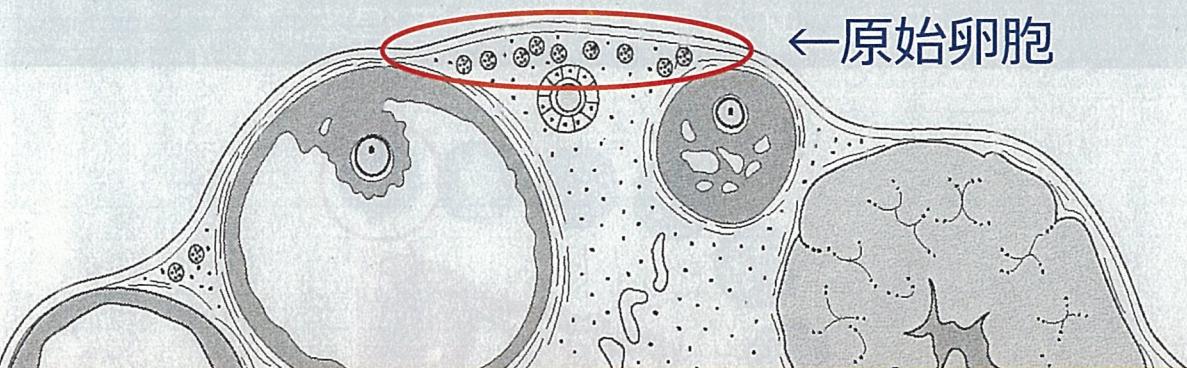
Percentages of ART Cycles Using Fresh Nondonor Eggs or Embryos  
That Resulted in Miscarriage, by Age of Woman, 2009



National Center for Chronic Disease Prevention and Health Promotion  
Division of Reproductive Health



21



最大の問題点は



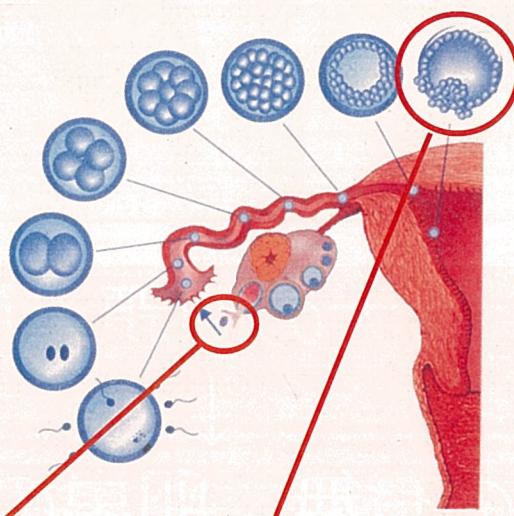
月経の有無 × 卵巣の予備能

月経があっても妊娠できるとは限らない

## 問題点：情報不足

- ✓ 生殖に関する知識不足・・・
- ✓ 正確な情報を伝えているか・・・

### 卵子、胚の凍結と生児獲得率



未受精卵子凍結→凍結に対するダメージが大きい  
→生児獲得率が低い

#### 卵子などの凍結



10-20% : 本邦  
(2-4%) : 欧米

30-40%

## Association between the number of eggs and live birth in IVF treatment: an analysis of 400 135 treatment cycles

Sesh Kamal Sunkara<sup>1</sup>, Vivian Rittenberg<sup>1</sup>, Nick Raine-Fenning<sup>2</sup>,  
Siladitya Bhattacharya<sup>3</sup>, Javier Zamora<sup>4</sup>, and Arri Coomarasamy<sup>5,\*</sup><sup>1</sup>Assisted Conception Unit, Guy's and St Thomas' Foundation Trust, King's College London, London, UK; <sup>2</sup>Nottingham University Research and Treatment Unit in Reproduction (NURTURE), Division of Human Development, School of Clinical Sciences, University of Nottingham

400,135周期

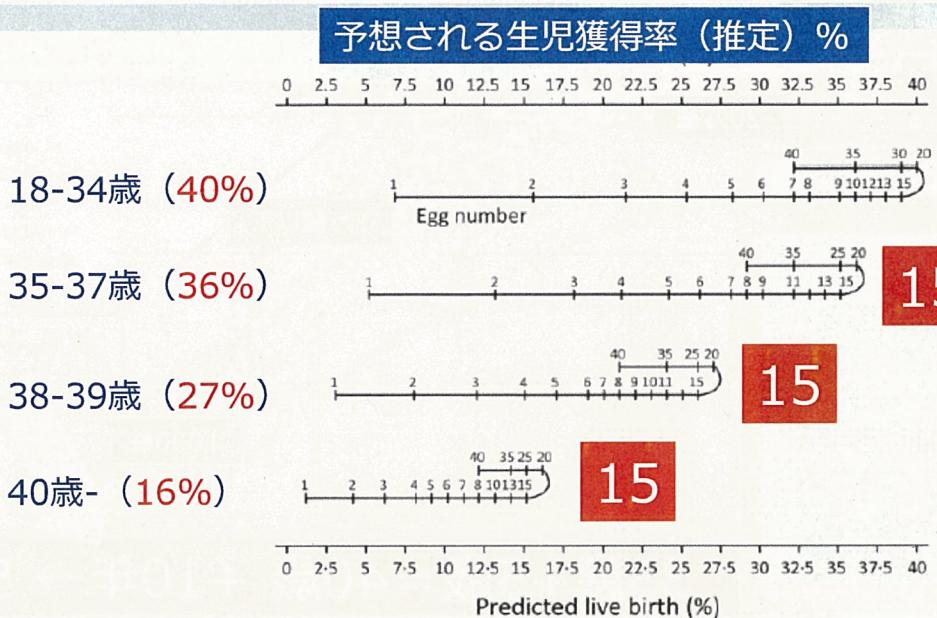
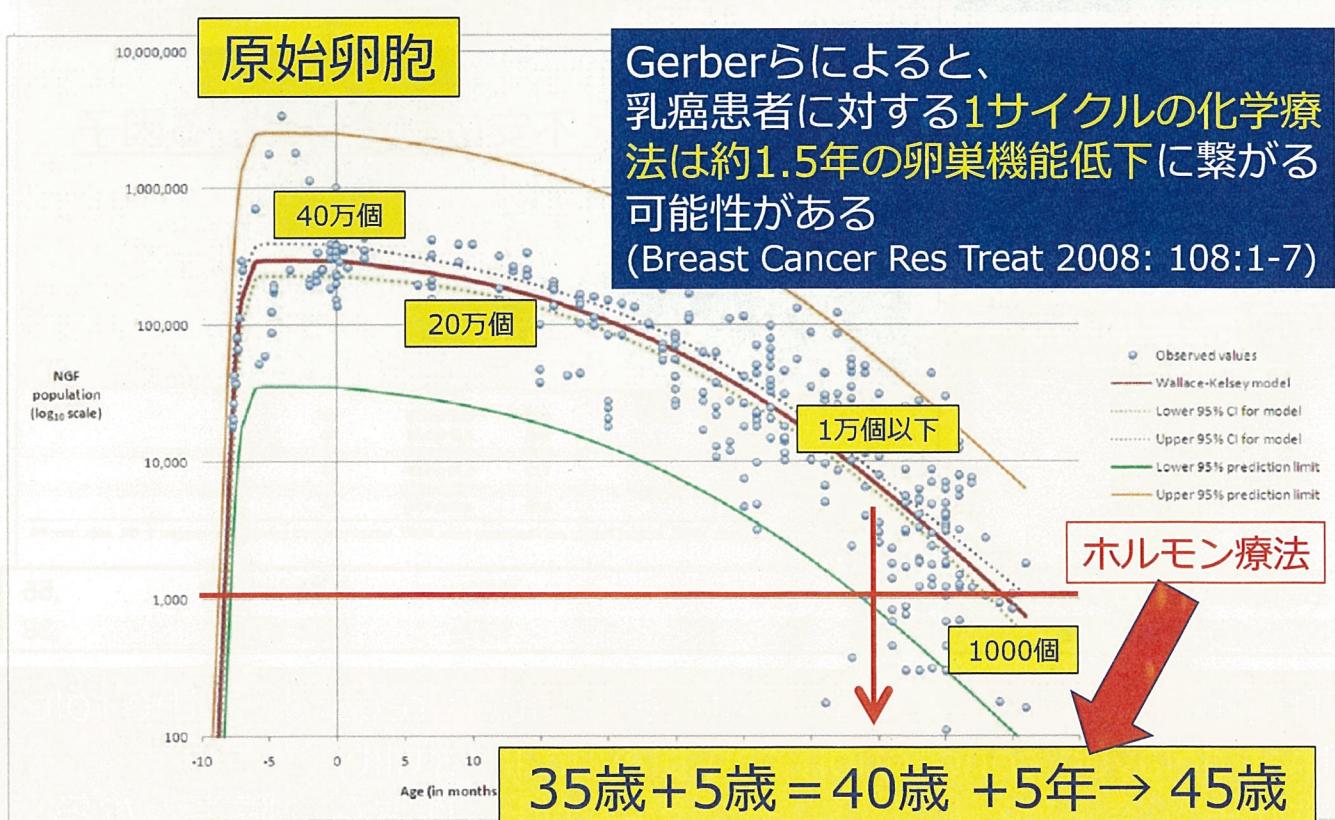


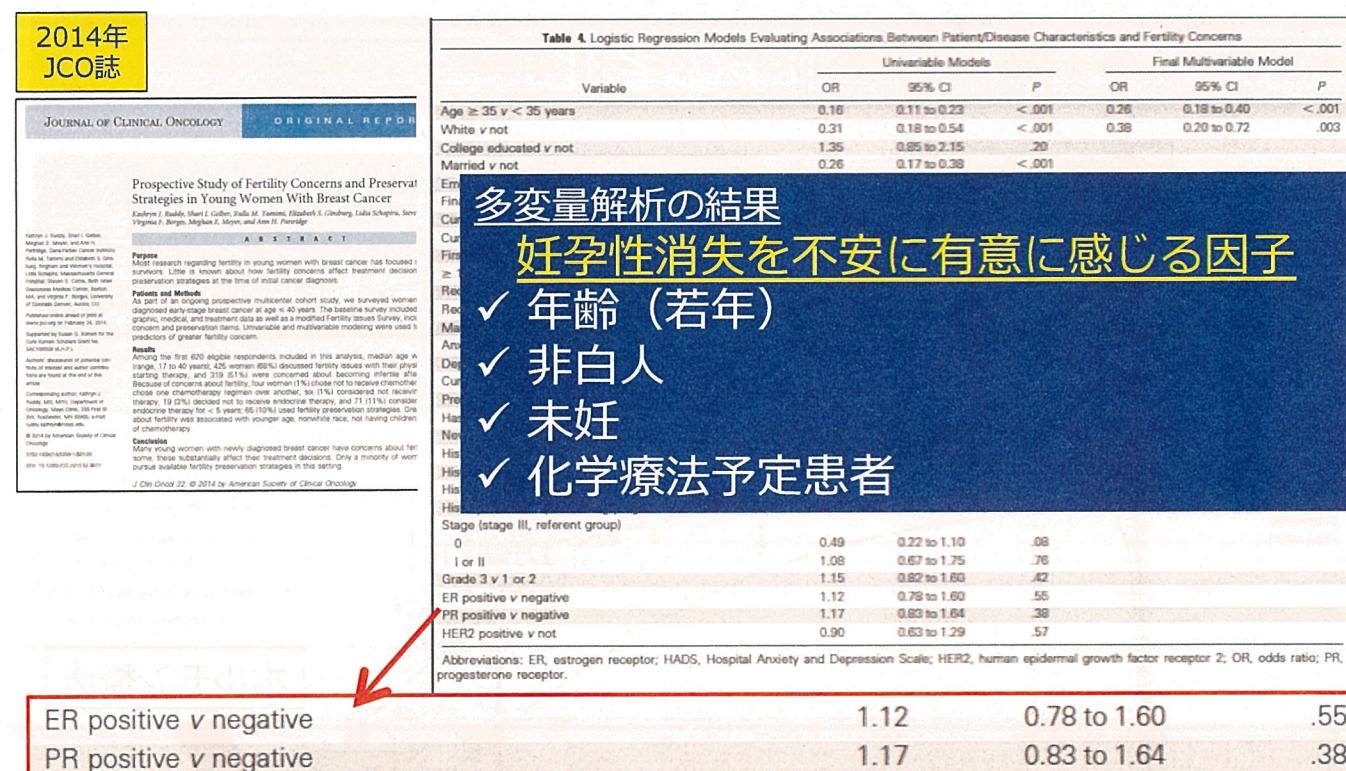
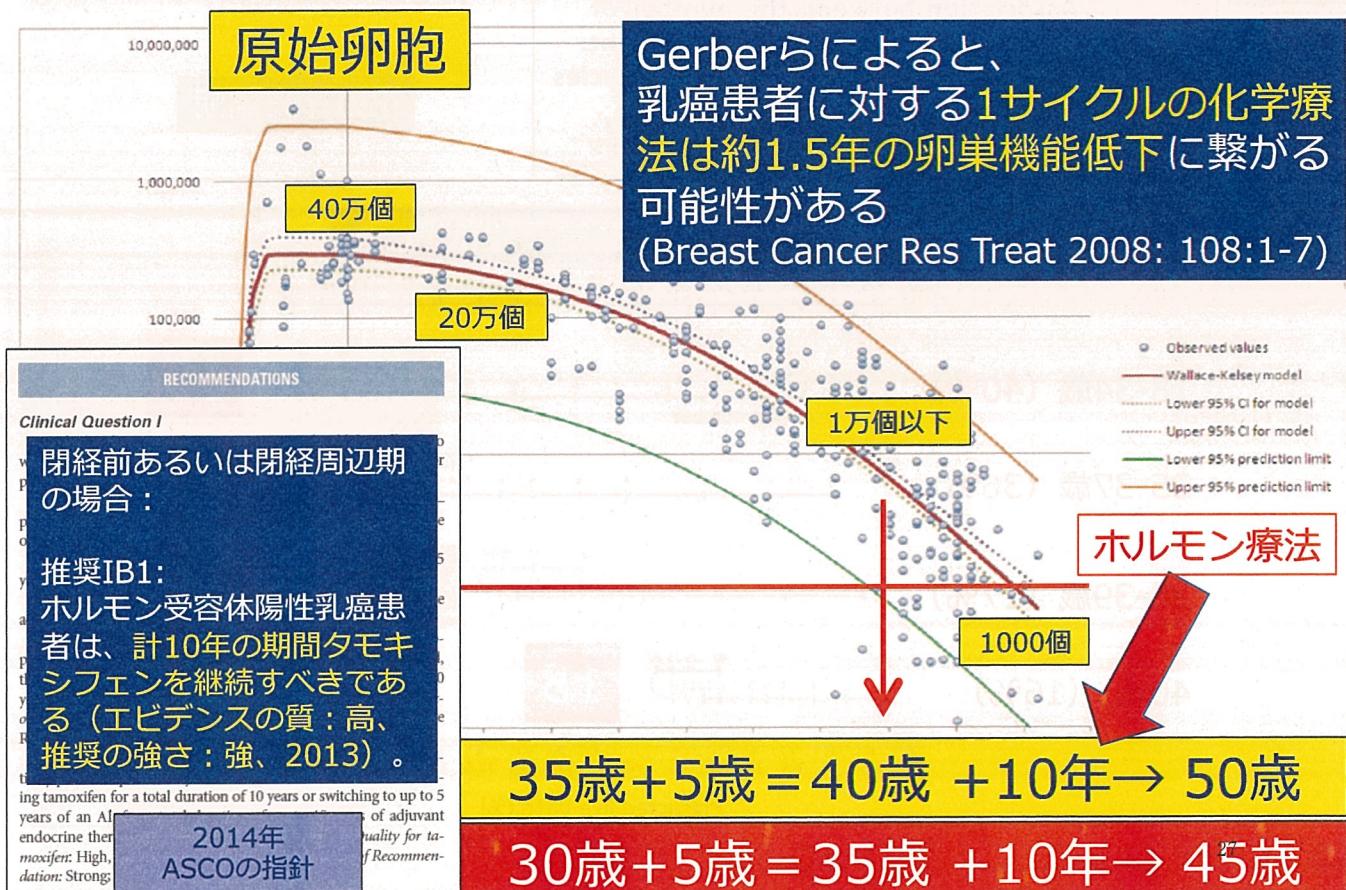
Figure 5 Nomogram to calculate predicted live birth probability given egg number and age.

25

## 卵子の老化



# 卵子の老化



This might reflect inadequate education regarding the role that delayed conception can play in infertility.””  
ホルモン療法施行により、その年数が妊娠性温存へ障害となることが伝わっていない！

“新しい医療技術を社会はどのように受け止め、家族としてどのように子供を受け入れ、育していくのか改めて問題となるであろう。  
自己決定に基づく生殖医療であったとしても、産まれてくる子供の同意を得ることはできないということである。”

吉村泰典 「我が国の生殖医療の未来に求めるもの」日医雑誌 142, 556-562, 2013

- ✓ 何よりもがん治療を最優先すべきである
- ✓ がん治療が奏効しなかった場合→産まれてきた子供の幸せは？
- ✓ がん治療を専門とする医師と、生殖を専門とする医師の間の医療連携が最も重要



- ✓ 希望を持ってがんと闘うために！！
- ✓ 生殖医療の限界を伝える
- ✓ 失われなくても済んだ妊娠性能力が、失われてしまう
- ✓ がん治療を専門とする医師と、生殖を専門とする医師の間の医療連携が最も重要



がん

生殖

妊娠性温存に関する正しい情報を、適確なタイミングで伝える！！

## 問題点：情報不足

- ✓ 男性若年がん患者においては？

## 配偶子（精子）凍結

### 高度の精巣機能障害

- ・ アルキル化剤→重篤な無精子症や遷延性無精子症（精子形成回復能が低い：1-5年）。1回投与量より、総投与量が問題
- ・ 白金製剤を基本とした多剤併用療法→精子再形成に2-4年要するが無精子症が持続するケースもあり

若年男性がん患者

精子凍結

31

## 配偶子（精子）凍結における問題点



1. 男性がん患者は精子の凍結保存が可能であるが、実際には一部の患者しか治療前に精子が凍結保存されていない現状がある。
2. 米国における小児がん専門医に対する調査によると、80%の専門医が治療後の男性不妊を問題視し、さらに86%の専門医が妊娠性温存に関する検討を行うべきであると考えているにもかかわらず、実際にはわずか46%の専門医のみが生殖医に治療前に相談を行っていない事実がある。
3. 生殖医療を専門とする医師への実際の相談不足は、若年男性がん患者の妊娠性を保つ際の最も大きな障害となっている。



## 問題点：

1. 正しい情報が伝えられていない
2. 的確なタイミングで伝えられていない
3. 医療連携不足

## 解決策：

1. がんと生殖に関する問題点の共有

2. 医療連携の構築

横のつながり→主治医と産婦人科医

縦のつながり→（岐阜モデル）行政—基幹病院—小規模病院

3. ヘルスケアプロバイダーの連携

医師、看護師、臨床心理士（厚労科研費：鈴木班）、ソーシャルワーカー  
ナビゲーション！（看護師、ソーシャルワーカー）

## 問題点：

- ✓ AYA世代への対策は？

AYA=思春期若年

がんサバイバーの妊娠率・生児獲得率低下に関わる因子

小児がんサバイバー(CCS)研究：コホート研究

1. 精巣への照射 > 7.5Gy
2. 卵巣への照射 > 5Gy
3. アルキル化剤用量依存性
4. 視床下部/下垂体への照射 (女性) > 30Gy



Green DM et al: JCO 2009, Green DM et al: JCO2010

視床下部/下垂体への照射 (女性) > 22-27Gy

Green DM et al: Fertil Steril 2011

# 患者さんの一例

症例 22歳 女性（妊娠歴なし）

診断 髄芽種



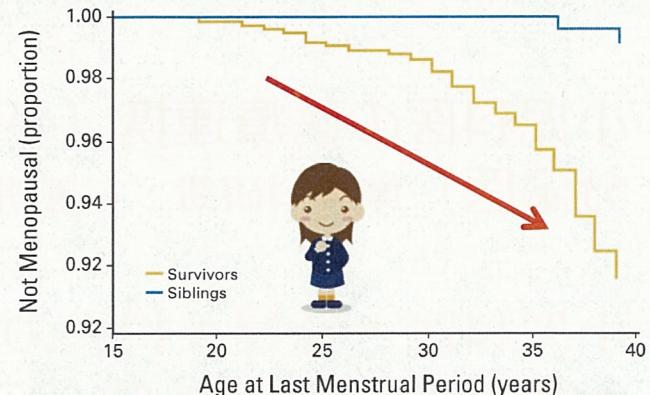
化学療法：ICE療法7コース（16歳時）

シスプラチニン、エトポシド、イホスファマイド

放射線療法：拡大局所照射24Gy、全脊椎照射30Gy

化学療法後：月経周期は不規則、経血量と期間が短縮→本人曰く順調！

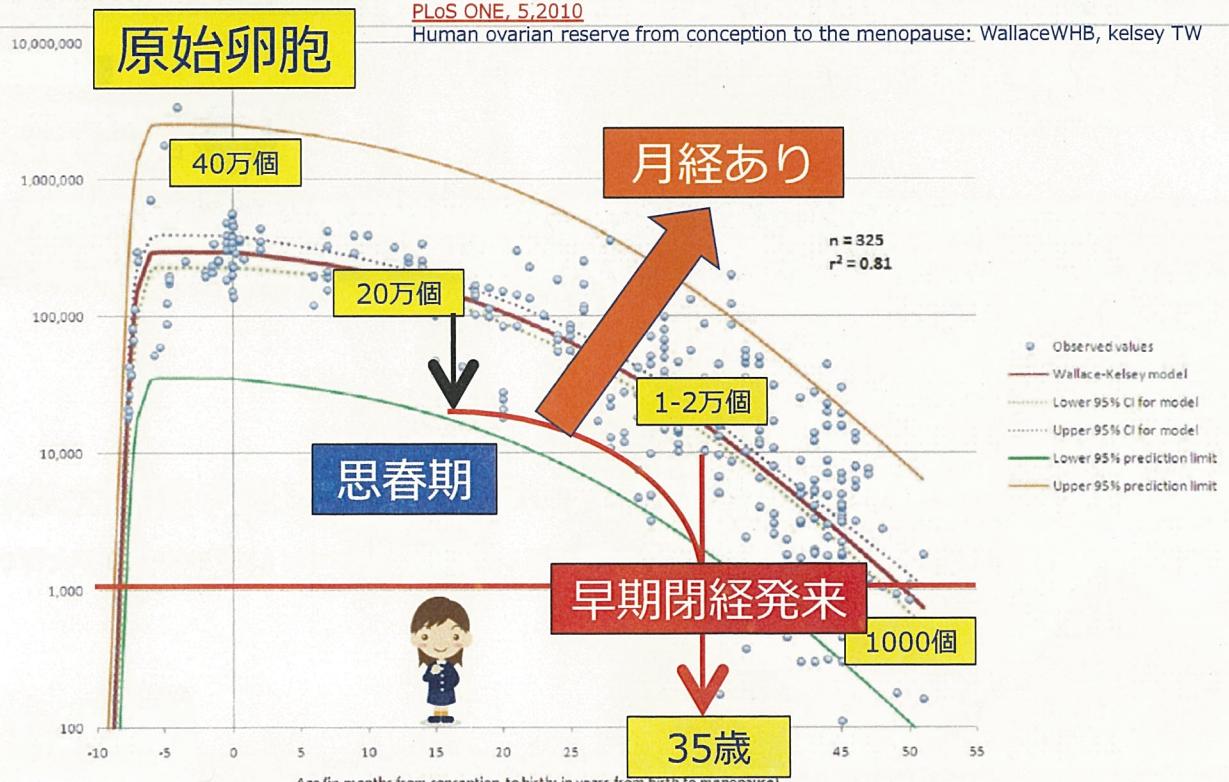
抗ミュラー管ホルモン  
AMH: 2.18 ng/ml  
卵巣年齢: 34~35歳



早期に閉経が発来する可能性あり！！

37

## 卵子の老化



若くして閉経となってしまう可能性がある、  
若年がん患者が多く存在している可能性有り！！

38

## 解決策：

- ✓ 正確な情報を得ていない小児がんサバイバーが数多く存在する可能性有り
- ✓ AYA世代への対策は・・・？



1. 小児科医の医療連携（小児がん治療医と小児内分泌医）厚労科研費：三善班
2. 小児科医と産婦人科医の医療連携  
→ 絶え間ないフォローアップ

39



## がん・生殖医療～JSFPの活動

「日本の「がん・生殖医療」発展のために」

### がん治療と妊娠 ～がん治療後の将来を見据えて～

ENGLISH



特定非営利活動法人  
日本がん・生殖医療研究会

一般・患者のみなさま

医療関係のみなさま

カウンセリングについて

特定非営利活動法人  
日本がん・生殖医療研究会(JSFP)  
Japanese Society for fertility preservation

希望を持ってがんの治療に取り組むために。

『妊よう性温存』に関する正しい情報を、正しいタイミングで知ることが大切です。

2012.11.3

<http://www.j-sfp.org>





# がん・生殖医療～JSFPの活動

GPOFs: Gifu-Patients & Fertility Specialists

森重教授、古井辰郎教授（岐阜大学）→2013年2月15日

**現状における課題と設立目的**

多くの婦人のがん患者は、子供をもうめざさないがん治療に対する理解を怠っており、そのため治療結果が不十分なものが多いため、本会議では、これまでの経験から得た情報をもとに、現状を分析し、より効果的な治疗方針を確立するため、治療法の検討や対策の実施を図ることを目的としています。



岐阜大学病院  
医学系研究科附属婦人科学  
がん・生殖医療ネットワーク  
データフォーラムリーダー

森重 健一郎 教授  
古井 長郎 准教授

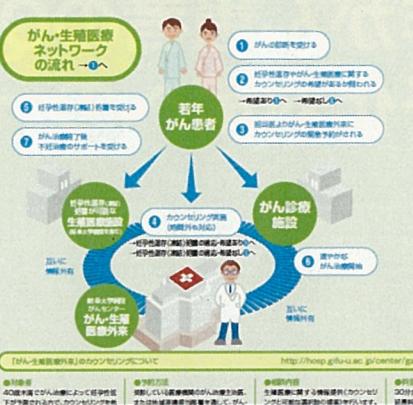
**がん治療によって生精能力が低下したり、不妊になる場合があります。**

子どもを望むことを諦めたくないがん患者のために、平成25年2月、岐阜大学病院が中心となり、国内初の「がん・生殖医療ネットワーク」を設立。岐阜県内の23の病院やクリニックが参加しています。

設立に尽力した、婦人科がんの専門医である森重健一郎教授と、生殖医療を専門とする古井辰郎教授にお話を聞きました。

**岐阜県がん・生殖医療ネットワーク**

**子どもを望むがん患者を支援する**  
**国内初の県内ネットワークがスタート**

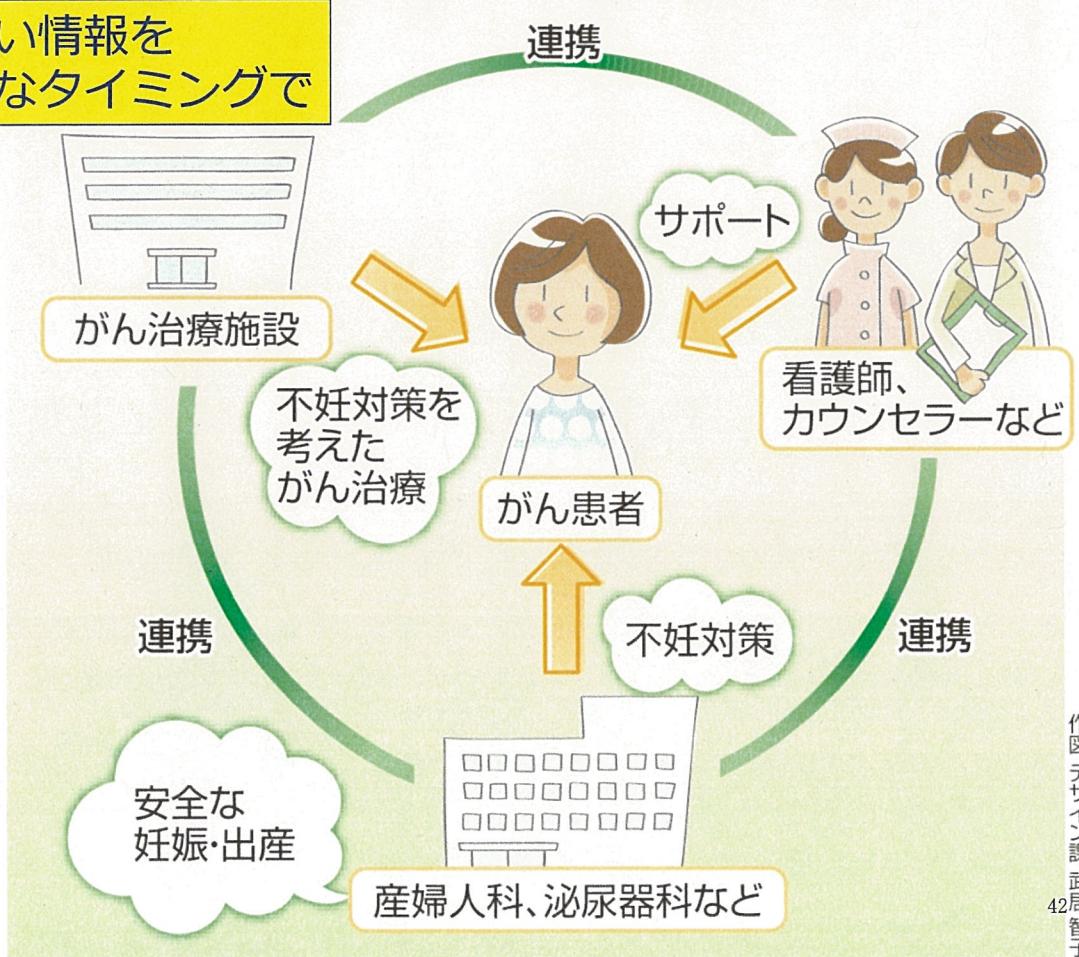


http://www.gifu-u.ac.jp/cancer/gan/generyaku.html

各地域で完結できる、がんと生殖に関する医療連携ネットワーク構築の必要性あり！

## 日本がん・生殖医療研究会の考える医療連携ネットワーク

- ✓ 正しい情報を
- ✓ 適確なタイミングで



## 地域で完結できるがん・生殖医療に関する連携 を充実させることによって・・・

- ✓ 若年がん患者のQOL向上
- ✓ 少子化対策への一助となりうる・・